

東京理科大学	正員	大林成行
東京理科大学		岡雅夫
東京理科大学	学生員	○早田光利
西松建設(株)		古村文平

1. はじめに

情報が重要な役割を果たす現代社会において、図形といった媒体を通じての情報の伝達が大きな研究テーマになってしまっている。すなわち、図形形状は人間の視覚によって判断できるために、一部定量性に欠ける欠点はあるにしても、専門の異なる多くの人達がお互いの意志を伝達するための会話の媒体としてその有効性が認識されはじめた。一方、電子技術の急速な発達に伴ない、周辺機器を含めたコンピュータの高性能化、低廉化が進み、単なる数値計算だけでなく图形形状のままコンピュータに入力したり、解析結果を視覚的に表示することができる图形処理システムが、現実のものとして指向され、多くの機関において開発が進められている。しかし、これらの图形処理システムをユーザー側から見た場合、特にメーカーから提供されているシステムは必ずしもソフトウェアとハードウェアの両方が効率的に利用できる状態になっていない場合が多い。すなわち、ハードウェアの分野だけが先行し、ソフトウェアの分野はユーザーのニーズに合致しない場合が多い。

2. 研究の目的

本研究は、都市計画や地域計画を策定される場合に不可欠の要素である地形図、土地利用図、各種規制図、交通網図等々の地理的情報を要領よくコンピュータの中に入力したり出力したりすることのできる入出力支援システムを作成するものである。地理的情報は、一般に、アナログ情報として取り扱われる場合が多く、コンピュータを介在して効率的に利用するには、ディジタル化や自動製図機といった周辺機器をいかに効率よく利用するかが問題になる。したがって、本研究の具体的な内容としてはアナログ情報として収集・表現された地理的情報の入力を容易にできるソフトウェアおよびコンピュータの中でシミュレートされた結果をアナログ情報として効率よく表現するための出力用ソフトウェアについて、それらのアルゴリズムの開発と実際のプログラムを作成することが主体になる。地理的情報の入出力支援システムの作成作業はつぎの2つに分けることができる。

①地理的情報の入力支援システムの作成

地理的情報を要領よくコンピュータに入力するためには、情報の構成要素である記号、線分、パターン等いかに効率よく取り扱うかが問題になる。本研究では、実際に87個の記号、線分、パターン等からなるユーザー・メニュー・シートを作成した。ユーザー・メニュー・シートは地図等を用いて地理的情報をディジタル化を使用してコンピュータに入力する際に、それぞれの座標データにその座標データに対応した各種の地理的情報の種類を判別するデータを付加せるものである。このユーザー・メニュー・シートを準備することで多種・多様な情報を内在した地理的情報を視覚的な判断とともに要領よく、迅速にコンピュータに入力することができる。

②地理的情報の出力支援システムの作成

ディジタル化で入力された記号、線分、文字、パターンといった情報をもつ地理的情報を自動製図機に要領よく、迅速に出力させる際のアルゴリズムの開発とその解釈プログラムを作成する部分である。本研究で開発した解釈プログラムは、(1)入力データの判別、(2)图形初期値入力、(3)点的情報記号の処理、(4)線的情報記号の処理(5)面的情報記号の処理、(6)英数字・特殊記号の処理といった6つのサブシステムから構成されている。前述のユーザー・メニュー・シートに登録された87個の記号、線分、パターンおよび漢字、文字等についてそれぞれ解釈を行ない、複雑な地理的情報を要領よく、簡単な指示で自動製図機を使って描画することができる。

3. 支援システムの概要

本支援システムは地理的情報の入力部と出力のための解釈部から構成されており、システムの全体構成を示すと図-1のとおりである。なお、データの出力部については汎用ソフトウェアパッケージが接続されて利用できるように工夫されている。

①データの入力部

ユーザー・メニュー・シートはユーザー・メニュー・ナンバーとそれに対応する文字や記号等から成っている。ユーザー・メニュー・ナンバーは、地理的情情報をディジタイザーを介してコンピュータに入力する際に、入力データ種類がどのような文字や記号であるかを判別するための情報を附加させる役目をもっている。現在は、土地利用図等で利用される文字、記号等を主体に87個のメニューが用意されているが、全体で192個まで必要に応じて順次追加できるように設計されている。本研究で対象とするデータは、地理的情報であるために、ユーザー・メニューの内容は主な地図記号・文字(漢字・英数字・特殊記号)および記号を描く際の初期値(ペンナンバー、記号の高さ、傾き、幅)の変更の情報を与えるものになっている。各情報は、ユーザーが使用しやすいように、点的情報、線的情報、面的情報、その他の各情報に分類してユーザー・メニュー・シート上に配置した。図-2に本研究で作成したユーザー・メニュー・シートを示す。

②データ出力のための解釈部

地理的情報の出力は、一般に、精度、縮尺化等の理由で自動製図機が利用される。本研究で開発したデータ出力用の解釈部は、ディジタイザーにより入力された地理的情報を用いてコンピュータの中でモデル実験等を行いその結果を自動製図機に出力するための解釈プログラムおよび图形データからなっている。解釈プログラムは多くのサブルーチンパッケージから成っており、前述した6つの群から構成されている。解釈プログラムでは、ユーザー・メニュー・ナンバーを照合することによって、ディジタイザから入力されたデータの種別(点、線、面、漢字、文字、初期値の変更)、地図記号の分類を判別して、それぞれのデータに対応した图形処理を行ない自動製図機の汎用プログラムパッケージに出力用のデータを引き渡す。图形データには、実際の文字や記号の图形パターンが前もって格納されており、解釈プログラムの実行中に呼びだされて利用された。本研究で用意された图形パターンは図-2に示した87個の文字と記号である。

4. 考察

本研究で作成された地理的情報を対象とした入出力支援システムは、膨大な量の情報や複雑な图形情報をコンピュータに入力したり、誰にでも理解できる形に変換して出力できるソフトウェアパッケージとして、图形処理を行なうユーザーにとって、極めて有効な手段となる。また、本支援システムは图形データの概念を導入したこと

により、点、面的な情報の表示に関しては、記号を構成する基本图形要素を登録するだけで、新たなメニューとして簡単に追加していくことができる利点、を有している。

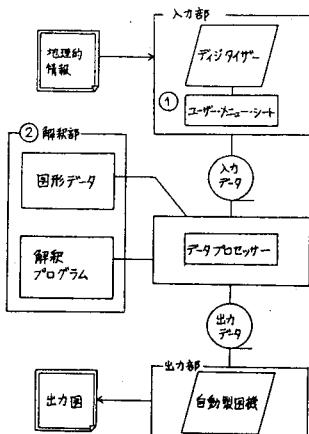


図-1 支援システムの構成図

145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161
120	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	
113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	
97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	
65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	
50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64		
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	
33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		

図-2 ユーザー・メニュー・シート